

Title	房總里見氏の研究(大野太平氏著, 千葉市寶文堂書店發行)
Sub Title	
Author	淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1935
Jtitle	史学 Vol.14, No.2 (1935. 8) ,p.181(363)- 181(363)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350800-0181

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

成されてゐると思ふ。一讀を薦める次第である。(菊判本文二四七頁、圖版五、定價二圓五十錢)(淺子勝二郎)

房總里見氏の研究 (大野太平氏著) 千葉市實文堂書店發行

本書は著者が曩に編纂せられた「安房人物志」に、里見、正木兩氏を除いては安全な安房房人物志とはいへないとの見地から兩氏の傳記(前者が中心になつてはゐるが)を加へて、それを集犬集せんとする意圖の下にものされた一つの勞作なのである。

本書は表題の示す通り房總に於ける里見氏の研究であつて、家基以前は略説に止つてゐる。房總里見氏の時代は普通義實が文安二年に安房を平定してから、慶長十九年の忠義の改易に至るまでの十代百七十年間となつてゐるが、これを大體二つに分けることが出来る。即ちそれは第一代義實から成義、義通、實亮、義豊に至る五代九十年間と、第六代義堯から義弘、義頼、義康、忠義に至る五代八十年間とであつて、前期は里見氏が安房と上總の一部とを領有してゐた時代で、勢力も微々たるもので、事實地方の一豪族に過ぎなかつた時代であるが、後期は勢力を得て領土を擴張したばかりでなく、他の諸豪族、就中北條、上杉、武田の三氏と密接な關係を有するに至つた時代である。

里見氏に關する諸書、諸記録は、多くは寛永以後のものではあるが、これには編述者の地方別によつてその内容に相異を認めることが出来る。即ち、江戸方面で書かれた「關八州古戦録」、「北條五代記」、「關東管領記」等々は地理上の誤多く、歴史的にも不

合理の點があり、北條氏の舊臣や子孫の手に成つたものには曲筆とも思はれる點もある。之に反して房總方面の「里見代々記」、「里見九代記」、「房總里見誌」、「房總里見軍記」等は、多くは里見氏の舊臣の子孫には地方の好古家のものしたもので、これ等には地理上の誤謬は少く、歴史系統の上にも不合理の點は少いが、やはり曲筆もあり、誇張もあり、誤謬もあるのである。

著者は從來の里見氏の研究に於ける錯誤の諸點を、大體年代、地理、出自、同名の四つに分け就中年代錯誤の研究訂正に力を入れた、これが本書の特徴をなすものともなつてゐる。

最後に「里見氏の制度及文化の一斑」と題して、制度の概要及法制の一斑、民政及財政、軍事、交通、里見氏歴代の信仰、學藝及習俗等を説き、附録として里見氏世紀、正木氏世紀、集成里見系譜、集成正木系譜、房總里見時代年表、地圖二葉、索引を添へてゐる。

本書は實に著者二十年間の辛苦の結晶であり、單に里見氏の傳記たるに止らずして、地方史として、更に廣く戰國時代史の一部とも見られる個所もあり、一讀得るところ多からんと信じ、敢て江湖に薦める次第である。(菊版本文六百頁、定價三圓五十錢)(淺子勝二郎)

漢學者傳記及著述集覽

小柳司氣太監修
小川實道編
關書院發兌

江戸時代儒者の述作書目として知られたものは從來その數決し